

抄 往還分齊

一．題意

「往相回向」と「還相回向」の二種回向の概念を峻別し「現生では往生や獲信後の還相は成立しない」ことを明らかにする。

二．出拠

謹按二浄土真宗一、有二二種回向一。一者往相、二者還相(『教行信証』『教文類』)

三．釈名^{しゃくみょう}：「釈名」とは、名目(教義概念)を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

「往相」とは、往生浄土の相状をいい、本願力回向の行信の因によって無上涅槃の証果を開く姿をいう。、

「還相」とは、阿弥陀仏の浄土に往生した後にする還来穢国の相状をいう。

「分齊」とは、それぞれの意義の範囲を明らかにすることをいう。

四．義相^{ぎそう}

(一)往相の意義

往生と即得往生の分齊

・「往生」とは、阿弥陀仏の浄土に往生生まれることをいい、命終時の往生である。

尚、「難思議往生」は、弘願念仏による眞実報土への往生をいう。

・一方、成就文の「即得往生」は、信一念の即時に入正定聚の益を得る現生の益である。

即得往生を現益とする二通りの解釈(Ref 安心論題綱要 P123)

・四字とも現生とする場合

往生は、入正定聚・住不退転の意味に留まる。

・即得を現生、往生を来生に分ける場合

往生は、命終時の往生、即得往生は、入正定聚・不退転位に就くことをいう。

(二)還相の意義

還来穢国の相

「還相」とは、衆生教化の救済活動に携わる還来穢国の相状をいい、今生で獲信後に直ちに還相の利他活動を行えるわけではない。

従果降因の相

一生補処の菩薩は、従果降因の相を取って無仏の土に渡って衆生の救済活動に入る。

五．結び・・定義と分齊をまとめる

ア)「往相」とは命終時に迷いの生を捨てて悟りの生を得る往生浄土の相状をいう。

イ)「還相」とは往生即成仏の証果を獲得後還来穢国して救済活動する相状をいう。

ウ)現生では往生や信後の還相は成立しない。

以上